

## II 旭区の将来の姿

### 1 旭区的主要課題

旭区は区民意識調査（平成 26 年 9～10 月実施）によると区内への定住意向が 8 割と高いものの、地域によっては「買い物がしにくい」「交通の便が悪い」など、日常生活を送るにあたっての課題があります。また、旭区では既に人口減少が始まっており、少子高齢化に伴う郊外部の活力低下や都市インフラの老朽化も指摘されています。

このように社会経済情勢が大きく変化している中、住み慣れた「ふるさと旭」で安心して健やかに暮らし続けることができるよう、区民・事業者・行政が協働してまちづくりを進めていく必要があります。

#### ◆主要課題

##### (1) 土地利用

高齢化の進行により、住み慣れた場所での日常生活に支障が出てきている地域があることから、住環境の向上に向けて、地域特性に応じた柔軟な土地利用を図る必要があります。

##### (2) 交通

道路ネットワークが脆弱なことから、交通が不便な地域が多く、区民の外出の機会の減少や慢性的な交通渋滞が発生しているため、交通ネットワークの強化が必要です。

##### (3) 環境

まとまった緑は保全が進められているものの、市街地に緑が少なく、農地や樹林地は減少傾向にあります。健全な水環境を維持するためにも、緑のさらなる保全が必要です。

##### (4) 魅力・活力

鶴ヶ峰・二俣川駅は、主要な生活拠点として機能を強化させ、魅力を向上させることが必要です。また、大規模団地の活性化を図り、持続可能なコミュニティを形成していく必要があります。

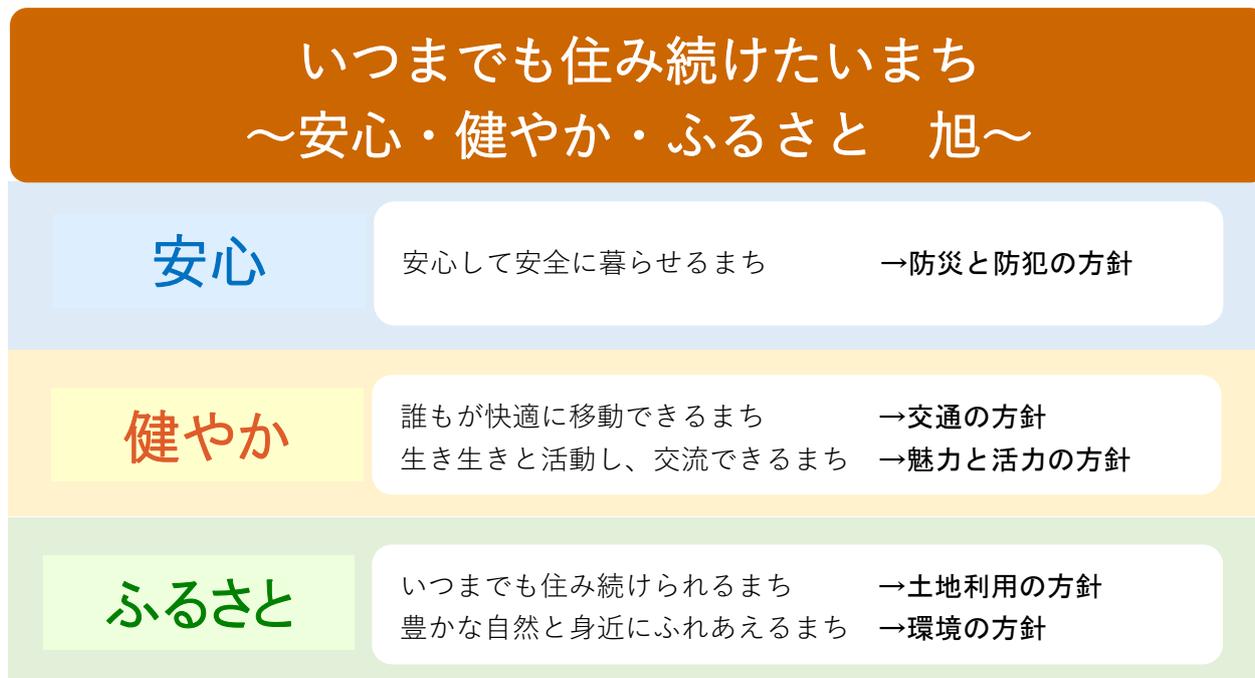
##### (5) 防災・防犯

被害を想定している巨大地震や大雨による浸水被害など自然災害に対する備えが必要です。また、地域における意識向上を図り、自助・共助による防災・防犯体制の構築が必要です。

## 2 旭区の目指す将来像

旭区の抱える課題に対応するとともに、地域の個性や特色に応じた良質で持続可能な住環境を目指すため、「いつまでも住み続けたいまち ～安心・健やか・ふるさと 旭～」を将来像とします。

### ◆目指す将来像



#### (1) 安心

雨水の流出抑制や河川改修などの治水対策がなされ、地域防災拠点までの避難路やオープンスペースが確保された災害に強いまち

地域協働や公民連携による見守りの目が増えることでセーフティネットが行き届き、必要な時に助け合える安全・安心なまち

#### (2) 健やか

バスや電車などの公共交通の充実や道路整備を推進し、魅力的な歩行者空間整備を図り、区民が快適に外出できるとともに、体を動かし、健康づくりを増進できるまち

駅周辺や大規模団地の生活拠点では、人が集まり、区民活動が活発に行われるなど、交流を大切にした活気のあるまち

#### (3) ふるさと

郊外の住宅地においても、商業施設が充実している駅まで出ることなく、住み慣れた地域内で日常生活が送れる誰もが住みやすく、住みたくなるまち

市街地にも保全された豊かな緑と帷子川流域が有する健全な水循環により、水と緑のネットワークが形成された生物多様性豊かなまち

### 3 将来都市構造図

将来都市構造図は、旭区のまちの成り立ちや、街路・街区の形状、現在の土地利用の状況を踏まえ、将来の目指すべき都市の姿を概念的に示したものです。

#### ◆将来都市構造図

